

令和元年度 第7回
第三者評価検証委員会会議記録

確 認 欄	教育長	教育次長	係長	係

日 時	令和元年2月25日(火) 11時00分～17時00分		作成者 事務局 総務教育係 小林義尚
場 所	信濃町役場 公室	配付資料	会議次第、結果報告及び最終報告書(案)、令和元年度信濃小中学校学校評価、前回会議録
出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齋藤委員長、近藤副委員長、加藤委員、藤倉委員 ・ 北垣内副校長、佐藤教育長、松木教育次長、小林総務教育係長 		
欠 席 者	なし		
内 容	検討内容	検討結果	
協 議 事 項	1. 開 会	事務局：松木教育次長	
	2. 挨 拶	佐藤教育長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度から2年をかけて通算7回の検証委員会となった。今回の委員会で一端検証結果と提案をとりまとめて区切りとするよう考えている。 ・ 小中一貫教育の9年間の節目の現8年生が卒業した後、令和3年度の開校10年目からのスタートに向けた改善とするための提言をいただきたい。 齋藤委員長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回が最終になるのでこれまでの検証の結果をまとめることになる。 ・ 目次毎に説明いただき協議をする。 	
	3. 協 議 (1) 最終結果報告 及び最終提案 書のまとめ	事務局：小林総務教育係長 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 第三者評価検証委員会結果報告及び最終提案書(案) 1 信濃小中学校第三者評価検証委員会の計画と役割 2 信濃小中学校の成果と課題として出された意見 ・ 3ページは、委員会回数を年度単位とせず2年間での評価検証を行ったことから第1回から第7回と標記した。 ・ 4ページは、委員会の役割を明確化するためページ追加した。 ・ 5ページは、前年度から大きな変更ない。 ・ 6ページは、前年度の学力との標記から全国学力調査の正答率と標記を変えた。 ・ 7ページは、前年度の箇条書きからマトリクスで標記した。 	

・ 8 ページは大きな変更なし。

【質疑・意見】

委員⇒ メリットとデメリットではなく成果と課題ではないか。

事務局⇒ 変更する。

委員⇒ 汎化という言葉が分かりづらい。

事務局⇒ 広がるなどの言葉に置き換える。

委員⇒ 昼休みが短いとリーダーが生まれにくいのか。

事務局⇒ 学校職員との面談での意見として出ていたが、初等部と高等部の時間が異なることでの教職員側での視点で標記する。

3 信濃小中学校の評価検証結果

・ 9 ページは、来年度 1 年を掛けて準備期間とし、10 年目から提言実行するため、10 年目の節目に向けてと標記を変更した。ですます調をである調に変更した。

【質疑・意見】

委員⇒ 特別支援学級の在籍率が高いことを課題と捉えて良いものか。

事務局⇒ 全国 2 % 台、県が 4 % 台であることから 6 % 台の信濃小中学校は非常に高いと言える。要因があるので改善は必要と考えるが、標記は検討する。

4 課題解決の 4 つの提案

・ 11 ページは、前年度からタイトルと並び順を変更したが、内容に大きな変更はない。

・ 12 ページは、学校の仕組みから教育の質を支えたり変えたりすることが分かるよう変更した。

【質疑・意見】

委員⇒ 課題をどのように解決するか一目で分かるような A4 版 2 枚程度にまとめた資料が必要ではないか。

事務局⇒ 学校の職員向けに提案を要約して A4 版 2 枚程度にまとめた資料の作成を今後考える。

委員⇒ 最初に改善案の全体像が分かるように工夫したらどうか。

(1) 持続可能なふるさと学習へ改善

・ 14 ページは、学校プロジェクトチームからの提案をベースに作成した。幼児教育と学校教育の接続としてふるさと学習が鍵になるため、学校での提案範囲よりも幼児教育まで範囲を広げている。

・ 15 ページは、キャリア教育とも重ねながらふるさと学習を取り組む。

・ 16 ページは、社会的自立に向けて心の原風景を育む意味付けた。

・ 17 ページは、体験学習の理論に重ねた学習効果として意味付けた。

・ 18 ページは、児童生徒の実感としての成果を乗せた。

・ 19 ページは、開校前のカリキュラム部会で提案があった内容を学校プロジェ

クトチームの提案に重ねて作成した。

- ・ 20 ページは、新学習指導要領とふるさと学習により育む、目指すべき子どもの姿を学校目標とも重ねて記載した。

【質疑・意見】

委員⇒ 横文字が多くレジリエンスが分かりづらい。

事務局⇒ レジリエンスを日本語にすると弾力性や復元力、耐久力と言った日本語になるが、逆境から立ち直るために必要な能力として抽象度を上げてレジリエンスとした。

委員⇒ 結晶性知能は、年を取っても忘れない能力である。若いころは、流動性知能で記憶することができるので、結晶性知能として効果はどのようなのか。

事務局⇒ 単なる暗記ではない学力を育む意味として結晶性知能を標記した。

(2) 新たな特別支援教育体制の構築

- ・ 22 ページは、学習の困難さと注意欠陥多動性を特別支援学級で指導をしてきたことが在籍率が高くなった要因と分析した。

- ・ 23 ページは、文科省からの通知による区分と種類で上記の支援は通級指導となっている。

(3) その他について

- ・ 24 ページは、通級指導とした場合の児童生徒との関わりで注意すべき点を記載している。

- ・ 25 ページから 28 ページは、具体的な学校での体制変更を示した。

【質疑・意見】

委員⇒ 提案されている内容を学校として実行することは可能なのか。

事務局⇒ 在籍している児童生徒もいるので直ぐに変更することは難しいが、理念を共有して方向目標として進めながら改善を考えている。

委員⇒ 通常学級、特別支援学級、通級指導教室それぞれの教職員が同じ意識で取り組むことが重要である。

学校⇒ コアサポート会議の役割とメンバーを見直して、意識共有を図る場へ変更は可能である。また来年度に向けて校内体制の見直しを考えている。

委員⇒ 通常学級でのユニバーサルデザインとはどのような内容を想定しているのか。

事務局⇒ 信州型ユニバーサルデザインで主には、学習面での分かりやすい授業の取り組みが中心となる。行動面はトータルコーディネーターが主となっているコアサポート会議で一人一人の子どもへの支援を検討するよう想定している。

(3) 学校を核とした地域協働の推進

- ・ 30 ページから 32 ページは、昨年度から今年度にかけて実行した内容である。

- ・ 33 ページは、応援団長とコーディネーターが中心となって学校が主体となって取り組むコミュニティースクールを想定している。

・34 ページは、第6次長期振興計画の理念の対話と協働のまちづくりを学校で具体化させる概念を示した。

委員⇒ コーディネーターと応援団長は現在いるのか。

事務局⇒ 以前には事務局にコーディネーターが配置されていたが、学校との連携で難しさがあり、今回は校内に配置しよう考えている。

委員⇒ 放課後学習塾の講師とあるが、公営の塾を考えているのか。

事務局⇒ 具体的な方法は決まっていないが、冬日課のバスを待つ時間を学校ではなく地域で学習支援できないかイメージしている。

委員⇒ 図書司書の代わりに地域サポーターで図書館運営するのか。地域だけでは難しい。

事務局⇒ 今年度2名いるが来年度1名として、減らした1名を保護者や地域の方に手伝ってもらおうよう考えている。図書司書1名はいる。

委員⇒ 学校運営協議会としなの学校応援団の関係は横並列で考えるのではなく学校運営協議会に含まれるかたちになるのではないかな。

事務局⇒ 役割として計画と実行として別けているが、運営協議会のメンバーにPTAも入っており、応援団も機能するようになれば入るよう考えて居る。

(4) 日課と学校行事の検討

・36 ページは、学校と相談しながら初等部45分を50分にそろえる日課とした。

・37 ページは、学校行事を地域と学校と一緒に取り組むことを提案した。

【質疑・意見】

委員⇒ 校内学習塾とするより寺子屋的な標記の方が良いのではないかな。

委員⇒ ユニバーサルデザインの日課との標記は変ではないかな。

事務局⇒ 分かりやすい日課など標記の方法を変更したい。

委員⇒ 低学年の給食の時間が短いことについて不安があるのかな。

学校⇒ 準備時間がどうしても必要で食べるのに時間もかかることから心配の声がある。4時間目の終わりの5分は準備時間とすることで解消できると考えているが、それでも足りない場合は開始時間を5時間目の開始時間を遅らせることで対応できる。

5 提案を具体化するために今後検討すべき事項

6 信濃小中学校のリフォームコンセプト

・38 ページは、今後必要となる検討事項を明記

・39 ページは、前年度から大きな変更なし

【質疑・意見】

委員⇒ リフレッシュ、リフレーミング、リフレクション、リフレインの日本語の意味を書いたらどうか。

事務局⇒ そのようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の委員会で指摘のあった字句の修正をした後、資料を各委員へ郵送する。各委員からの朱書き修正を受け、それらを修正したものを最終的に報告書として3月25日の教育委員会へ報告する。
<p>今後の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員は郵送された報告書資料の内容を確認し、意見など加筆したものを3月17日までに返送してもらい集約して事務局に一任でとりまとめる。 ・3月19日の議会全員協議会で報告 ・3月25日の教育委員会定例会で報告 ・3月31日までに町のホームページで公表